木の温かさ感じた

磯路小児童が椅子作り体験

「子供たちに木の温かさと物づくりの楽しさを」と二月二十四日、磯路小学校（前田都陽子校長）の四年生児童五十人が課外授業で椅子作りを体験しました。地元の大和木材㈱などから十名の木材プロがサポートにあたりました。

◆世界に一つの椅子

椅子作りは体育館で、杉材のキットと金槌、釘を使って行なわれました。同校OBでもある大和宏充社長がサンプルを手に、①まず脚部（ブリッジ）を組み、その上に板を三枚載せる②板は面取り（角を丸く削ること）された側を上にする③釘打ちは金槌の先の重みを利用し、最初はゆっくり小刻みに―などと手順やポイントを説明。「色んな使い方ができる世界に一つの椅子。気合を入れて作ろう」と呼びかけ、六班に分かれて制作が始まりました。

トントンカンカンと実に賑やかです。不慣れから来る釘打ちの苦戦が目立ち、サポーターが手直しに苦労する光景が目立ちましたが、それでも約一時間で作り上げた子供達は、さっそく座ったりお立ち台にしたりして楽しんでいました。

木材プロにサポートしてもらいながら杉材での椅子づくり体験をする4年生児童

◆助け合って作った

早く出来上がって友達の制作を手伝っていた女子児童は「釘をブリッジの内側に打ち込むのに苦労しました」。サポーターも唸るほどしっかりした椅子を作り上げた男子児童は「上の板がつるつるして気持ちがいいです」。板三枚を斜めに載せたユニークなデザインの椅子を作った女子児童は「世界に一つだけの椅子。とても嬉しい」などと話していました。

子供たちをサポートした大和木材の森口修治さんは「体験から学ぶことが大事と、あまり口出し・手出しはしませんでしたが、子供たちは色々工夫し、助け合いながら作っていて感心しました」と話していました。

このあと図書室で質疑応答やクイズ、木の凹みを戻すマジックなどで「木材学習」が行われました。

◇

地元プロの力を活かしたこの椅子作り体験授業。子供たちが地域の人々と触れ合い、地域の力を目の当たりにすることで、郷土愛を育む面での効果も大きいと思われました。

「受験頑張って！」

港南中でエール運動温かく

「試験頑張って下さい」―大阪府公立高校の前期入学試験を翌日に控えた二月二十二日朝、港南中学校の正門前で一・二年生の委員長と生徒会役員合わせて二十六人が、登校する三年生二百六人にエールを送りました。女子は「全緑合格～3年間をシャーペンにこめて～」と大書した横断幕を掲げ、男子は「合」「格」と書かれた緑の風船を両手に持って―。

同校では現在、「学校を良くする」ための様々な取り組みが行われていますが、この挨拶運動もその一つ。生徒と先生が相談し、「入試に向けて不安な気持ちになっている三年生を励ましそう」と発案。私立高入試の前日（二月九日）にも同様の運動が行なわれました。全力の「力」が「緑」で、風船の色も緑なのは、三年生の名札の色が緑だからです。

エールを受けた小松大晃君、島岡未奈実さんらは、「こんな応援をしてくれるのは港南中だけ」「不安はありますが、頑張れる気持ちになりました」などと話していました。

一方、エールを送っていた富田紫恵さん、櫻井知宏君、生徒会副会長の北島広夢君らは「三年生には体育祭や美化活動などでリードしてもらったので、その感謝の気持ちをエールに込めました」。『自分の受験の時にもこんな風に応援してもらったら嬉しいだろうと思いながら声をかけました」などと話していました。

学校生活の重要な節目に全校の知恵と思いを一つにした心温まる取り組み。寒い朝でしたが、記者も熱い感動をもらいました。

1・2年生のエールを受けながら登校する3年生＝2月22日朝、港南中学校で

〝のりもの〟に歓声

こどもパラダイス活況

「心と頭と体を使う遊び本来の楽しさを子供たちに」と二月二十日、港区民センターで「こどもパラダイス」が催されました。四回目。親子連れなど多数が訪れ、「のりもの」をテーマにした様々な体験に目を輝かせていました。㈶大阪市コミュニティ協会港区支部協議会と港区役所が主催。港区老人クラブ連合会など多くの団体・施設が協力。

★消防署ミニツアーも

ホールやロビーではミニ環状線運転、鉄道ジオラマ運転、乗り物釣り、伝承遊び、手作り玩具―などのコーナーに子供らが列をなし、ステージでは小学生バンド演奏、人形劇、紙芝居、子供民謡―などが次々登場、集会室や廊下では紙細工、船作り、絵本広場―などが賑わっていました。また午前と午後の二回、港消防署へのミニツアーが行われ、何組もの親子がはしご車などの消防車両を見学しながら、消防や救急の仕事について話を聞きました。

★鉄道模型運転に満足

鉄道模型運転を体験した浜川凌君（六）・大君（五）の兄弟は「雷鳥を運転してん」「僕はブルトレ」「トンネルを潜るところが面白かった」と満足げ。父親の宏之さん（三八）（波除）は「交通科学博物館でも運転した事がありますが、今日は特に楽しんでいたようです」。

消防署へのミニツアーに参加した山本千陽ちゃん（六）は「消防車には初めて乗った。（座席が）高かった」。母親の裕美子さん（弁天）は「初めて参加しましたが、子供の喜ぶものが一杯あって、とてもよい催しですね」と話していました。

〝のりもの〟ワールドに子供らの笑顔が溢れた「こどもパラダイス」（上から鉄道模型に夢中の男の子、ミニ環状線にご機嫌の幼児たち、消防車の中で満足げな男の子、〝のりもの〟を釣り上げ歓声を上げる女の子）

自己肯定感を育もう

港子ども劇場　子育て講演会好評

人形劇団ひぽぽたあむ代表・永野むつみさんによる子育て講演会「自己肯定感を育むには」が二月十、十一日、港近隣センターと港区民センターで行われました。港子ども劇場が主催。子育て中の母親を中心に約三十人が来場、子育てと劇作り体験に基づく熱い語りに耳を傾けました。

◆自立の力を手助け

講演の中で永野さんは、①「自己肯定感」とは自分で自分を認め、他者からも自分を認めてもらうことによって育つもの。それが相手を認めることにもつながり、心を豊かにする②「日本の子育て」は幼児期と思春期で逆。手助けが必要な時期に突っ放し、ハードルを自分で越えるべき時に口や手を出し過ぎている③「ハードル」は飛び越えるだけでなく回り込むことや押し倒すことも出来る。そんな大人の知恵を借りて、子どもは問題解決を積み重ね、諦めない心や達成感、自己肯定感が育っていく―などと語り、「子どもたちの自立の力を手助けするのが大人の仕事ではないでしょうか」と呼びかけました。

聴き終った女性は「まだ子どもはいませんが、早く母親になりたいと思いました」と話していました。

港子ども劇場　「生の芸術鑑賞を通して豊かな人間性を育てる」ことを目的に、年齢に応じた人形劇や音楽を年間数作品鑑賞。月会費四歳以上千百円。☎〇九〇―三八六二―〇一一九森本

講演する永野むつみさん

地域短信

■扇温泉が罐取り換え　市岡二丁目の銭湯「扇温泉」（丸田外喜さん経営）が一月下旬、罐を取り換えた。利用者減による経営環境悪化で「罐が壊れたら即廃業」というケースが多い中、「銭湯の灯は消さん！」と設備投資に踏み切ったもの。先代の罐は平成四年から十九年間稼働したが、内部の耐火煉瓦は材木との接触や使用時の熱でボロボロになっていた。据え付け工事は朝八時から深夜十二時まで。それから朝五時まで湯の〝仕込み〟をして翌日の営業に間に合わせた。罐は銭湯の〝命〟だが、「安物買いをして二～三年で穴が開いた」苦い経験も。ステンレス製が最高級で、「半永久的に持つ」そうだが、手が出ないので先代と同レベルの罐を調達した。同温泉の構造に合わせて設計された国産で、鉄と耐火煉瓦で出来ており鉄板の厚さは四～五ミリ。薪はもちろん重油でも焚ける。父の代から数えれば十基目くらいという新罐。還暦を超えた体に鞭打ち、自ら区内外を回って確保した廃材をくべながら、「こいつが持つだけ身体が持つかどうか」と笑う外喜さん＝**写真**。投げ入れ口の上にはマジックで「2011.1.26」と記してあった。

非常灯・誘導灯を
業界初 LED式蛍光灯に換えてみませんか！
5大特長
●交換時の取り替え工事が不要
●消費電力は一般蛍光灯の約半分
●鉛・水銀を使わず地球に優しい
●4万時間の長寿命で省メンテ
●紫外線少なく虫が寄りつきにくい
中小企業で世界初の全社屋LED化＜見学歓迎＞
前田機械㈱　LED事業部（LED照明・企画販売）
市岡元町2-3-28　☎6582-5010
http://www.maedamachine.com

子や孫に自分の人生を残そう！
お話をききとり、冊子にしてお渡しします。
400字（原稿用紙1枚）で千円が標準料金です。
経済的にも時間的にもゆとりができたので、貧しかった子供時代や夫との出会い、結婚後の喜びや苦労を聴き取ってもらいました。私たち夫婦の楽しみにと思って頼んだのですが、出来上がった冊子を娘や孫がとても喜んでくれ、びっくりしています。（波除・60代女性）
田中3-3-3 飯田編集事務所 ☎6571-4636

きれい・ていねい・安い
買い替えより修理
愛車のキズやヘコミを直して！
気になる車の凹みや傷を鈑金塗装でリフレッシュして、長く乗りましょう
鈑金塗装専門工場の当社へまず相談！
営業 8:30～18:30　定休 日曜・祝日
見積り無料　代車無料
DRPネットワーク加盟 各損害保険会社協力工場
オートアトリエ・ウエスト
http://www.aa-west.com
☎6571-2030